

小説を「軽く」 読むのは もったいない!

国際バカロレアの文学教師が
小説を「深く味わうコツ」を伝授



中高生・大学生・国語教師
文芸好きの若年層に大好評
『やさしい文学レッスン』
に続く第2弾が出来ました

芥川賞・直木賞受賞作家の人気作品や、誰もが知る
近現代文学作品を「ミクロ」と「マクロ」の視点で読み解く。
文章の工夫・作家の意図・語り手の力など、異なった視点から
作品をじっくり読み、作品を何十倍も面白く読むコツを知る。

本書で取り上げている作家

宇佐見りん、多和田葉子、川上未映子、小川洋子、李琴峰、村田沙耶香、恩田陸、辻村深月
東野圭吾、リービ英雄、村上春樹、カズオ・イシグロ、佐藤究、劉慈欣、カフカ、フォークナー
芥川龍之介、夏目漱石、太宰治、井伏鱒二、三島由紀夫、大江健三郎、吉行淳之介etc...

第1章

「文字」と「符号」の科学
表現の扉を開く

第2章

「静」と「動」の美学
文の構造がもたらすもの

第3章

「場の雰囲気」を
生み出すトリック
感情の「熱」と「冷」

第4章

「リアリティー」を求めて
描写のメカニズム

第5章

語る行為
さまざまな語り手をめぐって

「あじわう文学レッスン 文字と符号からひも解く小説のしくみ」

著：小林真大 定価：1800円＋税 仕様：四六判、並製、288p、2C ISBN:978-4-8441-3789-4 C0090



小説を「軽く」読むのは
もったいない

ひらがな、漢字、カタカナ何が使われている？ 文字の選択で作品の印象が変わる。
川上未映子はなぜ「嫌」でなく「厭」を使用した？ 「嫌」に含まれる“女らしさ”を匂わす要素とは。
サスペンス、ユーモア、緊張感・・・作家が演出するムードのしかけとは。
内田百間の文章はなぜ日常の世界から幻想の世界へ読者を誘うのか？
短文は読者の興味を引きだし、長文は疾走感を生みだす？
吉本ばなな「キッチン」にみる「短い文」の効果。たった6字が伝える「間」。
カズオ・イシグロ「日の名残り」の語り手“ステイブンス”は信頼できない？
etc...



著者プロフィール

小林 真大(こばやし まさひろ)

山形県生まれ。早稲田大学卒業。国際バカロレア文学教師。IB JAPANESE オンラインスクール代表。また、オンラインで海外子女への指導も行っている。著書に『文学のトリセツ―「桃太郎」で文学がわかる!』(五月書房新社、2020年)、『感想文から「文学批評」へ:高校・大学から始める批評入門』(小鳥遊書房、2021年)、『生き抜くためのメディア読解』(笠間書院、2021年)、『やさしい文学レッスン「読み」を深める20の手法』(雷鳥社、2021年)など。

10/11 注文〆切

新刊委託

帳合・貴店名

ご担当者名